

令和 6 年度 事業報告書

I	法人総括	1
II	介護保険事業	
1	特別養護老人ホームわがの里	6
2	わがの里デイサービスセンター	17
3	わがの里在宅介護支援センター	21
4	グループホームわがの里	25
III	わがの里保育園	28

社会福祉法人 和江会

令和 6 年度社会福祉法人和江会事業報告

I 法人総括

1 事業概要

令和 6 年度は、前年度下期に起きた能登半島地震をはじめ、国内で相次いだ災害を教訓として、突発的な災害への備えと、新型コロナウイルス等の感染症リスク対応を継続することを事業計画に掲げ、安全・安心な施設運営に取り組みました。

災害への備えでは、業務継続計画（BCP）の内容の点検や職員間での共有を図ったほか、特別養護老人ホームで、職員配置が少ない夜間での避難訓練を、保育園では保護者への園児引渡訓練等を行い、不測の事態が発生した時の行動を確認しました。

感染症対応では、感染対策の継続的な実施に努めた結果、職員、利用者に散発的に感染があったものの、施設全体への感染拡大に至ることはありませんでした。また、感染対策と並行して交流事業の拡大を進めました。特別養護老人ホームでは面会者数が増加しましたし、すずカフェでの食事提供、デイサービス敬老会への保育園児の訪問交流や、地域実施事業への職員の講師派遣を再開できました。

なお、令和 6 年度に介護報酬改定が行われ、これに対応し、医療と介護の連携の検討や、職員の処遇改善及び生産性向上委員会の設置による効率的なサービス提供の推進を図りました。また、保育園においては、チーム保育体制の拡充や国の公定価格改定に対応した職員給与の改善に取り組みました。

こうした中、令和 6 年度の経営状況は、法人全体の資金収支及び事業活動収支の決算額は、前年度に続きいずれもプラスとなりました。このうち資金収支は、介護保険事業及び保育園事業ともプラスでしたが、事業活動収支のうち、介護保険事業は前年度同様にマイナスとなり、保育園事業はプラスとなりました。

事業活動収支の介護保険事業のマイナスは、介護報酬改定や全体の利用者数増により介護保険収益が増えたものの、補助金が減となったこと、デイサービス事業利用者数が伸びず、引続きマイナスとなったことが要因であります。

保育園事業については、利用率が前年度を若干下回りましたが、市からの委託費が人件費加算のアップで収入増となり、一方、支出で人件費支出が増となったものの、収支全体ではプラスとなりました。

2 各サービスの利用状況

① 特別養護老人ホーム事業は、長期入所利用で、看取り等で退所した方が前年度より減少したことや、退所後の入所待機者との速やかな調整を図ったことにより、利用率は目標より多い 98.8%（前年度 97.8%）となりました。

また、短期入所利用についても同様に入所者数が増加し、目標 95% に対して 95.9%（前年度 86.6%）となりました。

- ② デイサービス事業は、週5日制の営業が2年度目となり、1日平均利用者28人を目標に取り組み、利用総数は5,990人（前年度6,018人）で、1日当たり実績は23.4人（前年度23.8人）で前年度を若干下回りました。このため、利用者が望む特色あるサービスを行うため、利用日を介護度に応じて分けてサービス提供することに見直し、取り組むこととしています。
- ③ 在宅介護支援センター事業については、居宅介護支援（要介護）が1,234件（前年度1,345件）で、予防・総合計画（要支援）は503件（前年度434件）となり、年度途中で介護支援専門員の退職もあり、総数で前年を下回りましたが、事業活動収支の黒字は確保できました。
- ④ グループホーム事業は、施設内で一時、入所者、職員にコロナ感染者が発生しましたが、幸い重症化には至りませんでした。入退所は各2名で、利用率は前年度と同程度の99.2%となり、目標の98%を達成しました。
- ⑤ 保育園事業については、定員140人に対し、年度当初は定員を下回っていましたが、徐々に増加し、年度末の3月で143人となりました。月平均142.5人の受入れとなり、前年度の利用率を若干下回りました。

〔各施設サービスの実績〕

サービス区分	定員等	年間最大利用者数	目標利用率	実績	実績利用率等	参考R5利用率
特養長期入所	50名	18,250人	98%	18,022人	98.8%	97.8%
特養短期入所	10名	3,650人	95%	3,501人	95.9%	86.6%
デイサービスセンター	要介護	7,710人	22.0人/日	4,749人	18.6人/日	18.4人/日
	予防・障害		6.0人/日	1,241人	4.8人/日	5.4人/日
	計30人/日		28.0人/日	5,990人	23.4人/日	23.8人/日
在宅介護支援センター	要介護135件/月	1,620件	135件/月	1,234件	102.8件/月	112.1件/月
	予防総合35件/月	420件	35件/月	503件	41.9件/月	36.2件/月
	計170件/月	2,040件	170件/月	1,737件	144.8件/月	148.3件/月
グループホーム	9名	3,285人	98%	3,260人	99.2%	99.3%
保育園	140名	41,160人	100%	41,863人	101.7%	102.4%

3 人材確保・育成の取組み

介護保険事業における無資格者の研修義務付け対応や、更なる資格取得を目指す意欲ある職員を対象に、職員資格取得支援制度を継続し、養成を図りました。なお、専門研修や福祉団体が行う研修に、新型コロナウイルス感染症以降に定着してきたオンライン形式を積極的に活用し、研修への参加を行いました。

また、職員の退職に伴う採用募集をしても応募がない状況にあったことから、民間職業紹介事業者を活用し、介護福祉士、看護師の採用につなげることができました。

4 地域交流・地域貢献活動の取組み

前年度に再開した介護の相談会「すずカフェ」を継続し、更に利用者に提供している食事の試食提供を再開し、参加者から好評を得ました。

また、保育園では、園児がデイサービスの敬老会への出演と交流を再開したほか、地域主催の敬老会にも参加して踊りを披露するなど、地域交流を行いました。

これら以外の家族や地域の方々が交流できる行事については、コロナの感染状況により、やむを得ず中止としました。

このほか、職員によるわがの里周辺のゴミ拾い地域清掃活動を継続実施したほか、包括支援センターが行った地域事業に、職員が講師として参加協力しました。

5 計画的な施設整備の推進

37年経過した特養施設、27年となるデイサービス、23年となる保育園の各施設・設備について、計画的に修繕等を進めました。

施設・設備整備状況（工事請負100万円以上、業務委託・物品購入等50万円以上）
〔介護保険拠点区分〕

施設	完了日等	件名	金額	契約相手
特養施設	5月28日	エアコン新設工事 (浴室脱衣場)	627,000円	南部電気工事(株)
	6月12日	エアコン新設工事 (居室9部屋)	858,000円	(有)岩手北菱サービス
	6月26日	急速冷却機購入	1,111,000円	ホシザキ東北(株) 北上営業所
	9月25日	屋上防水改修工事	4,950,000円	(株)TERUI
	10月9日	電動ベッドキャスター交換 (11台)	875,600円	(株)メディケアエコ ネット
	2月13日	見守り支援ベッド購入 (11式)	3,932,500円	(株)メディケアエコ ネット
デイサービス	6月12日	エアコン更新工事 (静養室・浴室脱衣場)	1,083,500円	(有)岩手北菱サービス
グループホーム	6月14日	エアコン新設工事 (廊下天井)	638,000円	(有)岩手北菱サービス

〔保育園拠点区分〕

施設	完了日等	件名	金額	契約相手
保育園	6月2日	エアコン新設工事 (保育室・サンデッキ)	599,500円	(有)岩手北菱サービス

6 役員会等の開催状況

① 理事会

区分	開催日	議 題 等	
第1回	5月31日	決議事項	令和5年度社会福祉法人和江会事業報告及び決算について
			社会福祉法人和江会職員給与規程の一部改正について
			社会福祉法人和江会定年退職者再雇用規程の一部改正について
			社会福祉法人和江会期限付臨時職員等就業規則の一部改正について
			社会福祉法人和江会指定通所介護事業運営規程及び北上市介護予防通所介護サービス運営規程の一部改正について
			令和6年度社会福祉法人和江会定時評議員会の招集について
第2回	12月19日	報告事項	理事長の職務執行状況報告について
		決議事項	社会福祉法人和江会職員給与規程の一部改正について
			社会福祉法人和江会定年退職者再雇用規程の一部改正について
			社会福祉法人和江会期限付臨時職員等就業規則の一部改正について
			令和6年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分補正予算(第1号)について
第3回	3月27日	報告事項	令和6年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算の流用の報告について
		決議事項	社会福祉法人和江会職員就業規則及び社会福祉法人和江会期限付臨時職員等就業規則の一部改正について
			社会福祉法人和江会職員の育児・介護休業等に関する規程の一部改正について
			社会福祉法人和江会指定介護老人福祉施設運営規程等の一部改正について
			令和6年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分補正予算(第2号)及び保育園拠点区分補正予算(第1号)について
			令和7年度社会福祉法人和江会事業計画並びに令和7年度介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について

② 評議員会

区分	開催日	議 題 等	
定時	6月21日	報告事項	令和6年度社会福祉法人和江会事業計画並びに介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について
		決議事項	令和5年度社会福祉法人和江会事業報告及び決算について

③ 監事会

区分	開催日	監 査 事 項
第1回	5月21日	令和5年度第4四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
		令和5年度社会福祉法人和江会事業報告及び決算について
第2回	7月30日	令和6年度第1四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
第3回	10月31日	令和6年度第2四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
第4回	1月30日	令和6年度第3四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について

④ 役員協議会

区分	開催日	協 議 事 項
第1回	3月19日	令和6年度第3回理事会議案について
		今後の法人運営について

Ⅱ 介護保険事業

1 特別養護老人ホームわがの里

令和6年度は、社会全体が新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に回復し、日常生活が平常に戻りつつある一年となりました。施設行事も小グループではなく、施設全体で行うことが増えて、入所者の気分転換や交流を深めることができました。

しかし、コロナウイルスだけではなく、インフルエンザや風邪症状のある入所者が季節の変わり目に増えたため、施設においては引き続き感染症への警戒が必要とされる状況が続き、感染対策の継続的な実施に努めてまいりました。当施設のように4人部屋の多床室を多く有する環境においては感染が広まりやすいため、距離の確保やゾーニングなど、可能な範囲での対応に取り組みました。

また、業務の効率化と職員の負担軽減を目的として、「生産性向上委員会」を新たに立ち上げ、業務プロセスの見直しや改善に向けた活動を開始しました。各課ごとにもプロジェクトチームを立ち上げ、現場職員の意見を反映させながら、実効性のある改善策の立案と実施を進めました。介護課では昨年度から夜勤13時間勤務を継続していますが、職員の病欠等があるときには、夜勤回数が月に6～7回と増えている状況にあります。他の課でも職員数減の状態が続いているため、労力削減、事故防止、ムダを省いた経費削減を目指して業務が改善されるように、適切な介護ロボットの導入に向けて検討を重ねているところです。

さらに、施設の稼働率向上を目指し、ロングショートステイ利用者の受け入れを積極的に行い、柔軟な運用体制の構築に努めました。感染者が発生しても長期の入所者と同じように嘱託医に診てもらえるため、急な利用キャンセルなどが減り、短期入所事業を休止することなく運営できています。

このほか、前年度に引き続き、地域住民を対象とした介護の相談会「すずカフェ」を定期的に行いました。介護に関する不安や疑問に対して専門職が対応し、地域とのつながりを深める貴重な機会になりました。特に、令和6年度から昼食の提供を再開したところ、参加者から「美味しかった」「栄養バランスが良い」と好評をいただきました。

今後も地域のニーズに応えながら、より多くの方に安心して当施設をご利用いただけるよう取り組んでまいります。

【利用稼働率】

〔入所者〕

満床(50床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月
18,250床	17,885床(98%)	18,022床(98.8%)

〔短期入所〕

満床(10床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月	長期空きベッドの利用
3,650床	3,468床(95%)	3,501床(95.9%)	59床

【具体的な取り組み】

① 感染症対策

ア 新型コロナウイルス…ワクチン接種（12月）

- ・施設入所者 44 名・ロングショート利用者 5 名接種
- ・コロナウイルス陽性者…短期入所利用者 1 名、職員 4 名

イ 肺結核…胸部レントゲン撮影（6月3日～7月1日）

- ・きたかみ駅前内科クリニックへ通院し、施設入所者 45 名実施（肺結核なし・45 名、何らかの所見あり・10 名）

ウ インフルエンザ…ワクチン接種（11月中旬）

- ・施設入所者 47 名・ロングショート利用者 4 名接種（家族の同意書徴収 北上市の補助金あり）
- ・インフルエンザ陽性者…施設入所者 3 名、職員 2 名

エ 疥癬

- ・短期入所利用者の入所時を中心に、日々皮膚の観察、衣類の加熱乾燥を常時行った。

オ ノロウイルス等の胃腸炎

- ・嘔吐や下痢の症状が見られた場合、感染症を疑い、吐物・排泄物の処理等に細心の注意を払って対応を行った。

カ その他

- ・感染症対策委員会を毎月開催し、法人の各事業所と情報を共有しながら対策を検討し、感染症予防を継続した。
- ・職員は出勤前に体調確認を行い、マスクの着用、こまめな手指消毒、定期的な換気を継続して行った。感染の可能性がある場合は出勤せずに自宅待機し、回復後に出勤することにした。
- ・また、抗原検査の実施については、短期入所利用者は毎回利用開始時、施設入所者は発熱時に実施し、感染症を施設に持ち込まないような対策を徹底した。
- ・短期入所利用者へは、利用毎にチェックシートの記入を依頼し、朝の検温・体調確認、同居家族の体調確認を行っており、次年度も継続していく。

② 職員の育成、介護力の強化

- ・「そばに寄り添い、楽しく笑顔で、心穏やかな生活を提供します」を目標に取り組んだ。
- ・令和 6 年度も従来のマニュアルを職員全員で見直し、新しい手順書を作成した。見直したことにより介助をする上で注意しなければならないことを明確にし、より細かい部分まで修正・更新することができた。手順書の見直しは毎年継続することにする。
- ・生産性向上プロジェクトチームを立ち上げ、現場職員の意見を反映させながら、実効性のある改善策を立案し、毎月業務改善に取り組んでいる。
- ・介護技術向上に向けて、外部研修・オンライン研修などへの参加、介護用品メーカーの講師を招いての実地研修を通して、介護ニーズの変化などについての情報を収集し、技術を学ぶことができた。また、介護福祉士・社会福祉主事・痰吸引などの資格

取得に向けた研修へも積極的に参加し、介護力の資質向上へつなげることができた。

③ 認知症ケアの強化

- ・ 認知症ケアに特化した研修を終了している職員が中心となり、施設内研修を行い、職員の知識・技術の向上に取り組んだ。また、日常生活のサポートを行いながら、定期的な評価・見直しを行い、その方に合わせて支援している。今後も職員の教育強化や環境の改善により、入所者の満足度が高められるような取り組みを継続していく。

④ 余暇活動について

- ・ 令和6年度の行事については、感染予防対策を講じながらも施設全体で開催することができた。施設内で夏祭りも開催し、盆踊り、かき氷、たこ焼き、魚釣りなどを通じて、「夏らしさ」を感じてもらうことができた。
- ・ ボランティアの受け入れや保育園児との直接の交流はできない状況ではあったが、その分小規模でも楽しめるようなことを企画して、入所者が日々穏やかに過ごしてもらえるように、散歩に出たり、レクリエーション、カラオケ、創作活動への参加を促した。
- ・ 次年度も、入所者個人のやりたいことの希望を調査し、個々に楽しめる企画を検討しながら開催へつなげていくことにする。

〔行事・余暇活動の実施状況〕

開催月日	行 事	実施場所		内 容
		園内	園外	
4 月	花見		○	園駐車場で花見、園庭散策
4/15～5/10	施設園庭散策		○	施設園庭散策 観音様参拝、写真撮影
5 月	塗り絵 輪投げ 風船バレー	○		塗り絵(鯉のぼり) 実習生と共にゲーム実施
6 月	カラオケ	○		カラオケクラブ(なじみのある曲) 「北上おでんせ」の踊り
6/2	レクリエーション大会	○		物送り、玉入れ
7 月	七夕飾り作り	○		七夕の短冊・飾り作成
7/7	七夕会	○		短冊紹介、魚釣りゲーム、季節食 「北上おでんせ」の曲で踊る
8 月	盆踊り 塗り絵	○		「北上おでんせ」の曲で踊る 塗り絵 (スイカなど季節の絵)
8/24	夏祭り	○		アイス、綿あめ、たこ焼きを食べて季節感を味わう 魚すくい 盆踊り
9 月	リハビリ体操	○		曲に合わせて体操をする
9/19	敬老会	○		受賞者写真撮影 行事食 サザエさん体操 後出しジャケゲーム

11月	クリスマスの飾りづくり	○		花紙で飾りづくり
12月	ツリーの飾付け	○		クリスマスツリーの飾り付け
12/25	クリスマス会	○		歌、おやつ
1/7	新年会	○		行事食 歌 権現様の頭かじり
2月	ひな祭りの飾り作り	○		飾り制作
2/3	豆まき会	○		豆まき、季節食
3月	リハビリ体操	○		身体を動かす
3/3	ひな祭り会	○		ひな祭りの歌、季節食、おやつ

*誕生会：毎月第3木曜日

*カラオケクラブ 毎週木・金曜日

⑤ 安全管理体制の強化

- 入所者の安全確保と事故防止については、リスクマネジメント担当の職員を配置し、「事故、ひやり・ハット」が実際に起きた場合の初動対応を安全に適切に行い、家族や病院への連絡等も迅速に対応できるようにした。その後書面による再発防止策を提示し、介護職員に対応策を徹底するようにした。毎月の安全対策会議でも再度検討し、全職員に対応を周知し、共有する機会をもうけた。特に事故後の初動対応動作については会議の都度確認し合い、医務課とも連携しながら再発防止に努めた。
- 3月より身体拘束を1件実施している。入所者の人権尊重の視点からリスクマネジメント委員会や介護課の担当者会議で、本人の状態に応じて見守りできる時間帯を増やせるかなどを話し合い、身体拘束解除に向けて取り組んだ。今後も職員の教育・研修の実施・代替手段の検討・個別支援計画の策定など、身体拘束のない介護を実現するための取り組みを継続していく。

〔入所者・利用者の事故状況〕

(単位:件)

区分	骨折	裂傷	皮下出血	転倒	ずり落ち	転落	その他	計
入所者	1	4	1	19	12	4	3	44
短期入所	0	1	0	2	5	0	0	8
計	1	5	1	21	17	4	3	52

〔ひやり・ハット〕 事例の上位

(単位:件)

1. 原因が明らかでない外傷（内出血、すり傷など）	123
2. その他	2

⑥ 施設サービス計画

- 施設サービス計画書については、入所者や家族が満足できるサービスを目指し取り組んだ。ご家族を含めた担当者会議は14回開催した。

担当省会議は新規入所時、要介護度更新時期、概ね6ヶ月毎に開催し、状態に変化があった時や看取り期においては随時開催した。

- ・ 会議開催回数については、長期入所201回（内新規10回）、短期入所91回（内新規27回）開催した。短期入所利用から長期入所利用に切り替わるケースは、入所時点で状態や支援の方向性を共有し、家族の意向や要望を確認することができた。
- ・ 短期入所利用者のサービス計画書を居宅支援計画に基づき作成し、施設内担当省会議で施設サービスの確認や留意事項などを申し合わせ、状態と対応方法を共有した。

60日を超えるロングショートステイ利用が計画されるケースについては、概ね3ヶ月、6ヶ月毎に担当省会議を実施し、生活機能や身体機能の維持ができていのかどうか、新たな生活課題が無いかなどを評価し、見直し後にケアプランを作成した。

利用者の中には、ロングショートステイと老人保健施設利用を交互に計画される方や、利用が数年空いて計画される方など、様々なケースがあるため、その都度状態確認を行いケアプランの再策定を行った。

- ・ 担当居宅介護支援事業所の介護支援専門員へは、利用期間中の生活の様子等の報告書を提出し、状態を共有している。在宅生活の支援継続、介護者の介護負担軽減のために今後も連携を図っていく。
- ・ 作成した施設サービス計画書は、遠方や来所できない家族には郵送対応、短期入所利用者は退所送迎時や面会等来所時に合わせて直接説明している。

⑦ 家族との連携及び情報共有

- ・ 施設サービス計画に係る目標、取り組み内容、生活の様子、健康状態、食事の様子等について、各担当職員が毎月連絡票を作成して郵送している。また、年に2回ほど季節の変わり目に衣類交換をお願いし、施設へ来てもらう機会をもうけた。担当が変更になった場合や遠方のご家族には、担当職員から生活の状況を写真付きで発送している。
- ・ 面会に来ていただいた際には入所者の生活の状況や本人の状態、支援方法などを説明し、本人の要望なども伝えて情報共有している。引き続き、ご家族と連携しながら、安心して生活してもらえるような取り組みを続けていく。

⑧ 看取りケア

- ・ 全身状態の変化により嘱託医から「回復の見込みがない」と診断された時は、身元引受人や家族への病状説明の場を設け、家族の意向に沿った対応を行った。
- ・ 看取り期を迎えたとき、嘱託医の指示を仰ぎながら、きめ細かな対応と緩和ケアに務め、施設で出来る限りの看取り介護を行い、11名の方を看取った。
- ・ 感染症対応をしながら、看取り期の家族の面会はできるだけ行ってもらうようにした。その際に家族の思いも共有することができたので、日々のケアへ活かすことができた。
- ・ 看取り後に家族へアンケートを依頼し、家族の率直な意見を記入してもらった。どの家族の方からも感謝の言葉を頂き、今後の職員のやりがいにつなげていくことができたので、このような取り組みは今後も継続していく。

⑨ 入所者の状況・健康管理

- ・ 令和6年度末で、男性5名(10%)女性42名(84%)になっている。
最高齢者は101歳女性、最低齢者は74歳男性。

平均要介護度は 4.14 である。要介護 4、5 の利用者割合が 84%（前年度 85.7%）。

- また、重度認知症（日常生活に支障をきたすような症状で行動や意志疎通が困難で常に介護が必要な者：Ⅲa 以上）は、43 名となっている。Ⅲa 以上の割合が 91.4%（前年度 91.6%）。

〔入所者の年齢〕 令和 7 年 3 月 31 日現在

（単位：名）

区分	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100～ 105歳	合 計	平均 年齢
男	0	1	1	2	0	1	0	0	5	80.8
女	0	0	2	1	9	17	8	5	42	92.1
合計	0	1	3	3	9	18	8	5	47	90.9
5年度	0	1	2	3	14	18	8	3	49	90.4

〔入所者の要介護度〕 令和 7 年 3 月 31 日現在

（単位：名）

区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
6年度	0	0	8	24	15	47
5年度	0	0	7	29	13	49

〔認知症高齢者日常生活自立度〕 令和 7 年 3 月 31 日現在

（単位：名）

区分	自立	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	合計
6年度	0	0	1	3	15	4	22	2	47
5年度	0	0	1	3	22	7	14	2	49

〔入所者の退所・入所状況〕

（単位：名）

在籍者		新規入所者		入所前の居所			施設退所者		退所時の居所	
男	女	男	女	在宅	老健	施設	男	女	施設	病院
5	42	2	8	0	0	10	2	10	11	1

- 施設の入退所は、11 名を施設で看取り、1 名は入院のため退所した。
10 名が新規入所している。

《健康管理》

ア バイタルチェックを行い異常の早期発見と早期対応

- 介護職員との連携をはかり、異常の早期発見に努め、体調異常時は速やかに嘱託医に報告すると共に家族へ連絡した。
- 体調不良者は観察事項等を重点的に申し送り、きめ細かな観察・対応を行った。

イ 回診及び専門病院受診の介助

- 入所者が体調不良時、本人や家族の希望を聞き嘱託医の指示を受け協力病院への通院を行った。
- 嘱託医の回診…週 1 回（火曜日の午後）
《入院延べ人数》 4 名（県立中部病院 3 名、北上済生会病院 1 名）
《通院延べ人数》 24 名

ウ 服薬の管理

- ・ 嘱託医、調剤薬局との連携・協力により、入所者の服薬状態に合わせた処方をしてもらう事ができた。
- ・ 誤薬の防止策として、一人一人1回分ずつをセットし、色分け、トレイへの選別など準備の段階から数回の確認作業を励行した。

エ 褥瘡予防対策及び処置

- ・ 毎月褥瘡対策委員会を開催し、皮膚の清潔・除圧・栄養など看護職員が中心となり、介護職員や機能訓練指導員、管理栄養士が連携して褥瘡の予防・処置・対応を行った。県立中部病院の看護師が訪問し、指示を仰ぎ治療を継続している。
- ・ 褥瘡発症者
長期入所者1名（令和5年3月に発症し、ポケット部が深いため、認定看護師に訪問していただき対応したが軽減せず、令和6年3月に入院切開し、退院後も処置を継続していた。令和6年7月に治癒。）

オ 経管栄養

- ・ 経管栄養者は1名で、栄養注入は、常に観察を行い異常の早期発見に努め、看護職員・介護職員と連携し適切に提供できた。
- ・ 胃ろうカテーテルの点検を毎日行い、病院で定期的な交換を行った。
- ・ 吸引を必要に応じて随時行い、誤嚥や肺炎予防に努めた。

カ 口腔ケア

- ・ 入所者の毎食前の義歯装着の確認・食後口腔内の清拭のため歯磨き・うがい・ブラッシングを行い清潔に努めた。義歯は清潔保持のため毎食後に洗浄し保管した。
- ・ 歯科衛生士が週1回口腔内を点検し、状況を毎月書面で家族に報告した。
- ・ 入所者の残歯のチェックを歯科衛生士と年1回以上行い、新規の施設入所者は、入所の月にチェックしている。
- ・ 経管栄養者の口腔清拭・歯茎のブラッシングを行い清潔保持に努めた。
- ・ 喀痰の吸引を随時行い誤嚥の予防に努めた。
- ・ 入れ歯の不具合などがあったときには、随時歯科医に通院した。
- ・ 口腔ケアの外部研修会に職員を参加させ、個々にスキルアップできた。

⑩ 個別リハビリ計画の実施及び評価

- ・ 施設入所者の重度化に伴い「常時介護が必要な入所者」の比率が高くなっている。一部介助の入所者も全介助に近い状態である。
- ・ 個々の有する能力を可能な限り維持し、少しでも向上できるように機能訓練指導員や介護支援専門員、看護職員、介護職員、栄養士等と連携して日常的な機能訓練を行っている。本人や家族の意向に添いながら機能訓練計画を作成し、現状維持できるように取り組んだ。入所者は各棟毎に過ごししながら、狭いスペースでのリハビリやレク活動も楽しく参加していた。今後も現在の能力が維持できるように努めていく。
- ・ 看取りケアも最後まで不安無く過ごせるように他職種と協力しながら関わることができた。

〔入所者の日動生活動作の状況〕 令和 7 年 3 月 31 日現在

(単位:名)

区分	歩 行	排 泄	食 事	入 浴	着脱衣
自 立	0	0	28	0	0
一部介助	6	18	4	13	12
全介助	41	29	15	34	35
計	47	47	47	47	47

区分	起 座	起 立	体位変換	車椅子	区分	会話
自 立	13	2	12	6	普 通	25
一部介助	14	17	12	5	会話難有	13
全介助	20	28	23	30	不自由	9
計	47	47	47	41	計	47

〔機能訓練延べ利用実績〕

(単位:名)

訓練項目	訓 練 内 容	実人数	延べ人数
歩行訓練	独歩、歩行器、手引き、伝い歩き、平行棒	44	4,807
起立訓練	平行棒、トイレ時の起立、ベット車椅子間の起立	19	3,279
座位訓練	椅子上での姿勢保持、車椅子・ベッド上での座位保持	37	8,702
レク活動	集団体操、カラオケ、色塗り、読書、裁縫、制作活動等	312	24,406

⑪ 栄養状況の把握及び安全でおいしい食事の提供

ア 入所者、利用者の健康及び栄養状況を勘案した食事づくり

- ・入所者毎に介護職員・看護職員・施設介護支援専門員・機能訓練指導員・生活相談員と協働し、概ね 3 か月に 1 回栄養ケア計画の作成・見直しを行った。食事状況（個別表）を毎月見直し、それに基づいた栄養管理と食事づくりを行った。
- ・虚弱者、低栄養者は、普段の食事摂取量が少ないため、高カロリー、高栄養で食べやすいものを一品提供するなど、栄養不足にならないよう対応した。

《個別対応・R7.3 現在》

- 栄養補助食品提供者…4 名
- 食事時間調整者…11 名
- 食材別水分粘度対応者(とろみ)…濃いとろみ 12 名 薄いとろみ 2 名
- 療養食対応(糖尿 5 名、減塩 5 名、腎臓 1 名) …11 名
- 食材制限者は随時対応(納豆、乳製品、揚げ物、野菜等)

- ・北上市在宅高齢者等配食サービス事業で、お弁当作り(夕食分)を週 3 回行った。

イ 安全でおいしい食事の提供

- ・年間の行事や季節食は、それに合わせた献立を作成し、旬の食材を取り入れて食事面からも雰囲気味わっていただくよう努めた。
- ・衛生管理マニュアルを周知徹底し、安全な飲み込みやすい食事の提供に努めた。
- ・今年度も、家族、地域の方から野菜、果物、米などを提供していただき、経費の削減につながった。これからも家族、地域の方との関係を大切にしていきたい。
- ・食材の物価高騰のため、業者や食材の選別を行い、食事の質維持を工夫した。

〔栄養ケアマネジメント実施状況〕

(単位:名)

実施月	入所合計 (1日現在)	入所者リスク変動			栄養ケア 実施合計
		低リスク	中リスク	高リスク	
4月	49	28	18	3	17
5月	50	27	19	4	15
6月	50	28	18	4	18
7月	49	28	17	4	17
8月	50	30	15	5	15
9月	50	29	16	5	18
10月	50	28	18	4	17
11月	50	28	18	4	15
12月	48	27	18	3	18
1月	50	28	20	2	16
2月	50	26	22	2	14
3月	50	27	21	2	19

※リスク判断基準

区 分	低リスク	中リスク	高リスク
体重減少率	3%未満	3～5%	5%以上
BMI	18.5～29.9	18.5%未満	
疾患			褥瘡

⑫ 地域交流・奉仕活動・防災訓練・苦情受付

ア 介護実習生の受け入れ

- ・福祉専門学校等の介護現場実習

期 間	日 数	実 習 団 体 名	受入人数
5/20 ～ 6/7	15日間	北上福祉教育専門学校 (2年生)	2 名
11/21～12/6	15日間	北上福祉教育専門学校 (1年生)	1 名

イ 清掃活動

- ・年に4回施設周辺の清掃活動を計画したが、天候により1回の実施になった。来年度も継続して計画し、活動回数を増やしていく。

開催日	参加人数	容量 90ℓ袋	内 容
10/11 (金)	26	2	老人ホーム・保育園・グループホーム周辺、 佐野公園までの道のりのゴミ拾い

ウ 介護の相談会・すずカフェ

- ・年4回企画し、昼食の提供も再開した。令和6年度から「きたかみ健康福祉ポイント」の対象になり、これもPRした。

開催日	参加人数	相談件数	すずカフェの内容
6/22（土）	6	0	「家族が認知症になったら」 担当：グループホーム
10/26（土）	3	2	「美味しく食事を摂るには」 担当：施設管理栄養士
12/21（土）	6	0	「わたしのきぼうノートについて」 担当：支援センター 講師：包括わっこ 竹花様
2/15（土）	8	2	「おしゃべりしながらレクリエーション！」 担当：デイサービスセンター

エ 包括支援センターわっこが企画している行事へ参加

- ・ロバ隊長ちくちく隊&c a f e への講師依頼があり、協力対応した。

開催日	参加人数	施設対応職員	内 容
11/7（木）	9	8	「美味しく食事を摂るには」施設管理栄養士 「タオルでストレッチ体操」デイサービス看護師 「すずカフェ」について 支援センター

オ 防災訓練について

- ・防災対策委員会の開催及び訓練の計画、BCPの作成、通報訓練、避難訓練等を行った。また、緊急時の連絡手段として、令和5年度から公式LINEを活用して連絡体制の充実を図っている。
なお、地震を想定しての緊急連絡体制も整えている。

〔防災訓練等実施状況〕

月 日	時 間	実 施 内 容
4月17日	09:00	消防設備点検
4月22日	14:00	第1回防災対策委員会 防災委員会
7月12日	14:15	避難訓練 パッケージ消火栓の使い方の確認
7月29・30日	09:00	地下タンク点検
8月 8日	14:00	第2回防災委員会
9月 6日	14:15	消火訓練（19:00～）通報訓練 避難訓練
10月30日	09:00	消防設備点検

カ 苦情受付

- ・入所者等の権利侵害の未然防止や、より良い処遇改善ができて信頼関係が得られるよう、相談・苦情窓口をもうけている。また、面会時に家族からの要望を聞く機会をもうけた。
- ・引き続き家族との連携を密にしていくために相談しやすい環境づくりを整えていくこととし、来年度は苦情だけでなく、「お客様の声」として意見や要望をあげてもらい、職員の意識向上や処遇改善につなげていくことにする。

〔令和 6 年度 苦情件数〕

(単位:件)

区分	特養入所	短期入所
援助に関する内容	0	0
その他	0	0

⑬ 施設入所申込み待機者の状況

- 令和 6 年度の新規入所申し込みは 58 件で、3 月末の待機者数は 321 名となった。待機者が多数のため、すぐに長期入所ができない方のために、各居宅介護支援事業所と連携しながらスムーズに短期入所を利用できるように調整した。長期入所待機者の家族にとっての介護負担の軽減や本人の生活意欲向上につなげることができた。

〔介護度別待機者状況〕

(単位:名)

区分	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
男	32	40	42	114
女	76	80	51	207
合 計	108	120	93	321
前年度	113	112	93	318

※平成 27 年度から、新規申し込み受付対象が要介護 3 以上になっている。

〔居住地別待機者状況〕

(単位:名)

区分	在宅等で介護	老人保健施設に入所	グループホームに入所	医療機関に入院 (療養型施設含み)	その他	合 計
合 計	112	57	11	96	45	321
5年度	112	56	13	93	44	318

※その他 …特別養護老人ホーム入所中 3 名、高齢者専用住宅入所中 13 名、
短期入所施設へ継続して入所中 25 名、小規模多機能施設 4 名

2 わがの里デイサービスセンター

令和6年度は、「利用者の自立支援・重度化防止、健康作り・健康管理に努めるデイサービス」を目標に取り組みました。また、数値目標として、1日平均利用人数を28人（要介護 22.0人、総合 5.0人、障害者 1人以上）として、事業実施しました。

利用者の健康管理として、特に体重測定や運動、口腔機能向上等に積極的に取り組み、利用者本人の健康への意識づけや身体機能の向上につながられました。また、前年度からの、営業日週5日制への変更、新規利用者の積極的な受入れや、家族からの急な追加利用希望、振替利用を継続しながら、利用の増加に努めました。

今年度新規利用の受け入れは26名（前年度25名）、体験利用14名（前年度11名）と前年度より多かったものの、中止利用者が26名（施設入所11名（特養わがの里入所5名）、死亡者6名等）で、新規利用者と中止利用者が同数となり、目標数値に届きませんでした。結果として、利用者実績は1日平均人数23.4人（前年度23.8人）と前年度を若干下回りました。要因として、他施設短期入所の定期利用（約10名）や冬期間のロングショート利用者（5名）が増えており、デイサービスよりも、施設や短期入所利用を希望する利用者、家族が増加している傾向にあります。また、新規利用者の依頼は要支援者が多く、要介護者は以前より少なくなってきました。要介護度が高い利用者の受入れをしても、すぐに施設入所希望に切り替えをしていく利用者が多く、長期間の利用に繋がらない状況にあります。この他、現在利用して頂いている利用者が90歳以上39名と高齢の方々が多く、常に体調の変化が起こりやすいという状況であり、体調を崩すと入院から施設入所移行していくケースも多くなっています。

《具体的な取り組み》

① 健康状態の把握と積極的な体づくり

- ・ 利用者の健康状態の把握の為、毎月、健康管理週間を設け、体重測定を実施。体重の増減の把握や栄養状態の把握をし、ご家族やケアマネに報告し状態を把握していただいた。毎月の体重測定を行うことで、利用者本人も体調を気にかけるようになり、意識が高まった。
また、フロア内の「歩け歩け運動」や階段昇降、平行棒を設置し、歩行訓練に取り組み、身体的機能向上に取り組んだ。午後のレク時には音楽体操やADL維持体操など取り入れ、体を動かすように取り組んだ。
- ・ 木曜日に看護師二人体制にすることで、要支援者への機能訓練を再開。運動する機会を増やし身体的機能向上に努めた。
- ・ 口腔機能向上に積極的に取り組み、昼食前の口腔体操で嚥下訓練や発声練習等を行い、誤嚥防止に努めた。食後には歯磨き指導を行い、感染予防、口腔衛生に努めた。定期的な歯科衛生士の観察により、口腔内の変化が見られた時には食事形態の変更や、利用者からの相談、家族やケアマネへ報告し改善に繋げた。

② 安心安全な環境作り

- ・ 虐待防止の施設内研修を取り入れ、虐待防止の早期発見に努めた。
- ・ 入浴時、皮膚状態の確認を行い、内出血等見られた場合は、ケアマネへ報告した。
- ・ 虐待防止検討委員会で、情報の共有報告を行い、事例を検討した。
- ・ 「生産性向上委員会」の取り組みを通し、常に環境の見直し、業務の改善効率化を行い利用者が安全に過ごすことができるように検討した。

③ 感染症対策

- ・ 常に感染防止の危機感をもちながら、日々感染防止に取り組んだ。
- ・ 新型コロナウイルス感染予防の為、職員、利用者とも送迎乗車前、玄関、食事前の消毒を徹底した。そのほか、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、職員出勤前の体温測定、利用者様利用時の朝の体温測定記入、チェックシートの記入継続、ご家族の体調観察協力も促した。また、利用時の体調観察、発熱時に直ぐにお迎えの要請を促し感染防止に努めた。
- ・ この結果、コロナウイルス感染によるクラスターの発生もなく、休業することなく営業できた。

④ 家族や関係機関との連携

- ・ 家族からの状態を把握し、職員間で情報を共有しながら、体調や生活機能の変化等を、家族や介護支援専門員、訪問看護へ、その都度情報提供した。介護認定更新時や状態変化の担当者会議に参加し、日々のミーティングでの報告や対応の検討を繰り返した。
- ・ 毎月、職員会議の中で、対応困難な利用者や新規利用者の支援を検討、共有した。

⑤ 職員の資質向上、介護力・看護力強化

- ・ 「生産性向上プロジェクトチーム」を立ち上げ、常に業務の見直し、改善に取り組んだ。ムリムダを職員間で話し合い、業務の改善、効率化につなげた。
- ・ 介護認定更新者の状態把握、心身変化や対応困難な利用者の支援の見直しや適切な介護の検討を行った。
- ・ 研修は、職員数が少ない為、なかなか参加が難しかったが、リモートなどで出来る限り参加し、知識や技術の習得に努めた。
- ・ 感染症のシミュレーション研修等、在宅介護支援センターと共に施設内での研修を行い、知識・技術の習得に努め、職員の資質向上を図った。
- ・ 看護師は、木曜日以外が一人体制になっているため、利用者の急変時など、看護師の負担が大きいため、今後緊急時の対応など職員間の研修を取り入れていく。

⑥ 事故、ひやり・ハット

- ・ 「事故、ひやり・ハット」を検証し、利用者の方々の安全を守りながら、喜んでもらえるサービス提供を心がけ、必要な介助や支援を行った。職員の目が届かないところがないように休憩時間を再検討するなど職員配置を見直し、大きな事故なく利用いただいた。
- ・ 日々の業務の中で気づいた危険な場面や状況を報告し合い、大きな事故を防止できるように職員間での情報交換を行い、転倒防止や再発防止に努めた。
- ・ 令和6年度は、事故7件、ひやり・ハット1件であった。

〔事故状況〕 7件

事故内容	転倒転落	外傷出血	衣類紛失	貼付薬忘れ	その他	合 計
件 数	2	2	1	1	1	7

その他…請求書渡し間違い

〔ひやり・ハット状況〕 1件

事例内容…ベッドの下に四つん這いになっていたところを発見した。

⑦ 地域交流

- ・ 6年度に、新たな取り組みとして利用者の「社会参加型プロジェクト」を実施した。利用者の得意とする編み物の「アクリルタワシ」や広告のチラシで作成したゴミ箱を袋詰めし、地域包括支援センター、特養わがの里玄関、わがの里保育園に置いて、無料配布を行いながらデイでの活動のPR活動を行った。
また、利用者が制作活動で作った物を皆様に使っていただくことで、社会に参加でき、「やりがい」「生きがい」を持ち意識向上に繋がっていることから、引き続き、取り組みを継続する。
- ・ 地域貢献として、昨年に引き続きわがの里職員全体で施設周辺のゴミ拾いを計画し、わがの里周辺3コースに別れて地域清掃活動を行った。
- ・ 前年度から再開した「すずカフェ」では、参加者に向けて健康作りの体操の提案と指導をデイの職員が担当して行った。デイ担当月は、参加者が一緒に楽しめる参加型にし、制作活動やゲームを取り入れ、新規の参加者にも楽しんでもらうことができた。

⑧ 非常災害対策

- ・ 非常時に備え、感染対策をしながら避難訓練を実施した。また、業務継続計画（BCP）を会議にて、職員間で見直し周知した。

《行事への取り組み》

- ・ 活気を持ち、体を動かしてもらうため、「ミニ運動会」を実施した。はちまきをして体を動かし、応援合戦を行い、運動会気分を味わった。
- ・ 「敬老会」は、職員による出し物や、利用者と一緒に踊りを行い、盛り上がった。
- ・ 初めての取り組みとして「のど自慢大会」を実施した。利用者や職員、他部署のわがの里職員にも参加を募り、参加してもらい、たいへん盛り上がり、利用者に喜んでもらえた。

〔行事実施状況〕

行事名	期 日	時 間	内 容
運 動 会	10/15～21	午後	紅白に分かれて、ゲームや応援合戦をして雰囲気を楽しんだ
敬 老 会	9/18. 19	14:15～15:00	敬老者表彰／記念品贈呈 職員による余興、クイズ
納 涼 会	8/19～8/23	14:30～15:00	アイスポート提供、盆踊り
のど自慢大会	11/18～11/22	14:30～15:30	利用者、職員、他事業所職員に参加を募り、カラオケ実施

《利用登録者の状況》

〔表1〕 利用登録の変遷

(単位:名)

区 分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
男	22	24	18	21	13	10
女	98	99	82	67	61	68
合 計	120	123	100	88	74	78

[表 2] 通所介護利用者数 (単位:名)

区 分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
介護保険	7,651	6,848	6,527	5,777	4,645	4,749
介護予防	2,021	1,812	1,791	1,317	1,304	1,198
合 計	9,672	8,660	8,318	7,094	5,949	5,947

[表 3] 年齢構成 令和 7 年 3 月 31 日現在 (単位:名)

区分	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合 計
男	0	0	1	1	3	3	1	1	0	10
女	0	0	1	1	4	24	25	10	2	67
合計	0	0	2	2	7	27	26	11	2	77

平均年齢 87.2 歳 男性 84.5 歳 女性 89.9 歳 (障害者 1 名除き)

[表 4] 要介護度の状況 令和 7 年 3 月 31 日現在 (単位:名)

区 分	要支援1 事業対象者	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	障害者	合計
男	0	1	4	1	1	1	2	0	10
女	13	8	25	15	2	4	0	1	68
合 計	13	9	29	16	3	5	2	1	78

[表 5] 認知症高齢者の日常生活自立度 令和 7 年 3 月 31 日現在 (単位:名)

区分	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計
男	1	2	3	3	1	0	0	0	10
女	8	18	13	14	10	2	1	1	67
合計	9	20	16	17	11	2	1	1	77

(身障者 1 名・除く)

[表 6] 令和 6 年度新規・中止利用者

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新規利用者	1	2	0	2	2	3	1	1	5	1	0	8	26
中止利用者	2	1	0	2	0	1	4	2	2	4	5	2	25

※ (中止理由) 施設入所 11 名、死亡 6 名、入院中 3 名、その他 5 名

《身体障害者等デイサービス事業》

- ・身体障害者及び知的障害者等の自立促進、生活の改善、身体機能の維持向上等を図ることが出来るよう、健康管理、食事、入浴等の各種サービスの提供に努めた。
- ・現在、女性 1 名 (28 歳) のみの利用になっている。痰吸引が必要な利用者の為、看護師が常時対応している。

[利用状況] (単位:名)

区 分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
登録人数	3	3	3	3	3	1
延利用数	196	179	119	118	69	43

《配食サービス事業》

自宅で一人暮らし、又は夫婦暮らしの老人に対し夕食（1食 580 円）を届け、安否の確認や会話を通じてコミュニケーションを図り、孤独感の軽減に努めた。

食事提供以外に配食サービス事業が担っている、利用者の身近状況の把握と関係機関との連携による在宅生活継続のための支援に努めた。

食材費高騰に対し、北上市と委託料等の協議を行い、料金引上げ改定となっている。

（今年度、新規 3 名、年間 918 食の弁当を届けた。）

〔利用状況〕

（単位：名）

区 分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
登録者数	13	10	9	7	8	8
実施日数	153	155	156	103	154	154
利用延数	1,925	1,438	1,364	837	1,080	918
平 均	12.5	10.2	8.7	8.1	7.0	6.0

3 わがの里在宅介護支援センター

令和 6 年度の実績数は、介護計画総数が、居宅介護支援 1,234 件で、前年比 111 件減、介護予防総合事業 507 件で、前年比 73 件増となりました（表 2）。職員体制が 1 名減の 4 名となったことで、月 170 件の目標数達成には至りませんでした。居宅介護支援の大幅な減少は、看取りの方や施設入所をする方が多く、利用期間が短かったこと等が要因であり、介護予防総合事業の件数増は、地域包括支援センターからの紹介が多かったことや、介護保険認定審査会において、要介護の方が要支援になる件数が増えたことが影響していると考えられています。

利用者の契約終了は 51 名で過去最多となり、内容は、在宅でのご逝去が 12 名、病院でのご逝去 18 名、療養型病院への入院 1 名、介護老人保健施設への長期入所 5 名、グループホームへの入所 1 名、特別養護老人ホームへの入所 6 名、他居宅支援（転居含む）への移行 4 名、その他（有料老人ホーム、小規模多機能施設、看護小規模多機能施設）4 名となっています（表 6）。入所については、本人や家族の状況を把握しながら、1 人暮らしや介護状況の限界を見極め、施設の情報を伝え、入所申し込みを促し、入所への橋渡しに努めました。

支援困難なケースが増えてきているため、事業所内で随時相談をし、地域包括支援センターとの連携や保険者との情報共有を行うなど、解決に向けた取り組みを行いました。

このほか、各研修会への参加や、内部でのケース検討会及び他事業所（JA 花巻居宅介護事業所）とのケース検討会を開催することで、介護支援専門員の資質向上に努めました。

《具体的な取り組み》

① 自立支援のための介護計画作成について

- ・ アセスメント（課題分析）、モニタリング（月 1 回以上の定期訪問）により状態把握

に努め、生活ニーズの視点に基づいて、利用者の能力を最大限に生かせるようなケアプランの作成に努力した。

- ・ 介護事業所の介護計画を把握し、居宅サービス計画と突合しているか確認し、連携を図り、課題解決、自立支援の向上に努めた。
- ・ 居住環境を把握し利用者・家族の意向を確認しながら、福祉用具業者や通所サービス（デイサービスやデイケア等）との連携を図り、暮らしやすい環境作りに努めた。

② 地域包括ケアの役割遂行について

- ・ 危機介入（虐待）と思われるケースや、又将来的に虐待があり得るかもしれないケースについては、早めに地域包括支援センターへ報告し、場合によっては同行訪問の依頼をし、大きな問題に繋がらないように対応した。
- ・ 困難事例はケアマネ1人で抱え込まず、事業所内での事例検討会での検討会を行い、さらに解決が困難な場合は、地域包括支援センターへ相談し、情報共有し解決策を探った

③ 居宅介護支援専門員の質向上について(特定事業所加算Ⅱの要件)

- ・ 地域包括支援センター主催の事例検討会に参加し、困難事例の解決策を検討した。
- ・ 他法人（JA 居宅介護事業所）との事例検討会を、今年度3回実施した。検討会の他情報共有も図ることができた。
- ・ 権利擁護及び成年後見人制度の研修会に参加し、必要な情報や知識を得ることができた。
- ・ 事業所内で週1回の事例検討会や勉強会（復命研修含む。）を実施した。また、担当ケースの進捗状況を伝え合い、研修会を通して知り得た知識や情報を共有しあった。

④ 居宅介護支援事業所の評価について

- ・ 保険者のケアプラン点検で、プランの適応は概ね良好の評価を得た。
- ・ 介護支援専門員の自己評価を年1回行った。今後は年に2回行い、自己の業務の振り返りを行う場としていきたい。
- ・ 事業所満足度調査は実施できなかった。

⑤ 社会資源としての役割について

- ・ 相談会（すずカフェ）を4回開催した。
- ・ 今年度は介護支援専門員実務研修「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習・同行訪問」はなかったが、今後もいつでも受入ができる体制作りを行っていきたい。

⑥ 安定した運営のためにについて

- ・ 居宅介護サービス計画の作成は、介護支援専門員1名につき、月目標30件は達成することができなかった。
- ・ 介護計画の目標は達成できなかったが、予防・総合事業計画の計画数については昨年度を上回った。（表2）。
- ・ 生産性向上の取り組みとして、専門外業務（事務等周辺業務）の作業を軽くするため、環境整備として、意識して書類整理の時間を設けた。また、請求業務等を支援するソフトウェア導入を検討し、次年度の活用開始につなげた。

《利用実績表等》

[表 1] 介護度別の給付管理状況

令和7年3月31日現在

区分	事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
利用者数	3	25	19	50	23	5	8	8	141
比 率	2.1	17.7	13.5	35.5	16.3	3.5	5.7	5.7	100
男 性	1	4	5	21	7	2	1	2	43
女 性	2	21	14	29	16	3	7	6	98

[表 2] 月別利用者数の推移

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	31
要支援1	24	26	24	22	21	22	25	25	25	23	24	25	286
要支援2	12	11	13	13	15	16	16	16	19	18	18	19	186
要介護1	44	45	50	51	48	52	49	48	53	51	48	50	589
要介護2	25	25	22	22	23	25	24	26	25	26	26	23	292
要介護3	14	9	10	10	10	7	6	6	5	5	4	5	91
要介護4	18	18	21	21	18	15	16	15	15	13	9	8	187
要介護5	6	7	7	5	3	5	6	6	6	7	9	8	75
計	145	143	149	146	140	145	145	145	151	146	141	141	1737

[表 3] ケース検討会開催状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	4	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	3	45

[表 4] サービス別利用者数(介護サービス)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問介護	15	14	15	14	13	11	12	14	17	14	15	14	168
通所介護	55	57	54	52	48	51	55	53	58	62	51	49	645
通所リハビリ	26	26	24	25	24	24	27	26	24	20	18	20	284
認知症通所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護	25	23	27	24	21	17	20	20	19	17	16	14	243
訪問入浴	1	2	3	3	2	1	3	2	2	1	3	3	26
短期(生活)	14	15	16	21	17	18	18	21	23	19	16	15	213
短期(療養)	5	4	5	5	4	3	5	9	6	4	6	5	61
福祉用具貸与	67	62	63	60	57	56	59	57	54	62	48	46	691
訪問リハビリ	6	7	9	9	7	6	6	6	5	5	6	5	77

[表４－２] サービス別利用者数(介護予防サービス)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防訪問介護	3	2	2	2	4	4	4	4	6	6	6	4	47
総合通所サービス	19	21	22	23	23	25	26	26	29	22	28	32	296
通所リハビリ	8	8	7	5	5	6	7	7	10	9	9	8	89
予防短期入所	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
訪問リハビリ	3	2	1	1	2	2	2	2	2	2	1	3	23
予防訪問看護	1	2	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
予防福祉用具	16	17	16	16	17	16	17	17	17	15	16	17	197

[表５] 特定事業所位置づけ計画数(和江会介護サービス分)

・通所介護

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わがの里	35	36	35	32	29	31	32	31	35	33	29	27	385
他事業所	21	22	20	21	20	21	24	23	25	24	23	23	267
比 率	63	62	64	60	59	60	57	57	58	58	56	54	59

[表６] 利用者の異動状況(要介護者)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入 院	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
施設(特養)	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	6
施設(養護)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設(老健)	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5
施設(療養)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グループホーム	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
転 居	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
他居宅支援	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
死 亡	5	2	0	3	4	2	2	0	2	5	2	3	30
その他	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	4
計	6	6	2	4	5	2	6	3	3	8	3	3	51

4 グループホームわがの里

【令和6年度の基本方針】

- (1) 地域とのつながりを復興し、利用者が笑顔になれる機会を提供する。
- (2) 職員個々の取組みと職場研修を通じ、研鑽を図り成長できるように取り組む。
- (3) 医療関係など他事業所と連携し、支援体制の強化を図り、サービスの質を高める。
- (4) 「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を」目指す。
- (5) 新型コロナ感染症等の状況に応じた対応がとれるよう体制を整備する。
- (6) 利用者の方々の理解を深め、適切な支援が行えるよう取り組む。

目 標	年間延べ利用者数 3,285 人 利用率 98% *定員 9 名
実 績	年間延べ利用人数 3,260 人 利用率 99.2% (前年度実績 99.3%)

* 入退所は4名、入院0名。

令和6年度は、8月に利用者1名が看取りとなり、残りの時間を大切にして共に過ごすことができました。また、11月下旬からは、利用者の新たな交流機会として、移動販売車に定期的に来所してもらい、入居者自らがおやつ等を購入できるような利用を開始しました。

なお、12月、1月、3月に、合計して職員4名と利用者1名が新型コロナに感染しましたが、幸い、利用者・職員ともに重症化には至りませんでした。この間は、残った職員による休日出勤等で対応しました。ただし、これ以上の感染となった場合、職員の勤務態勢維持が難しくなることから、施設全体でのバックアップ体制を今後検討していくこととしました。

《具体的な取り組み》

- ① 地域とのつながりを復興し、利用者が笑顔になれる機会を提供する。
 - ・ 地域への行事には今年度も参加を見合わせたが、ハロウィン等の保育園児の訪問、特養での夏祭りへの参加、季節毎の地域へのドライブ等、利用者が笑顔になる機会を提供した。行事の実施状況については、【表1】のとおり。
 - ・ コロナ感染対応中以外は対面での面会が実施できた。【表2】のとおり。
 - ・ 毎月15日頃に家族連絡票を各家族に写真も添付し送付し、生活の様子を報告した。
 - ・ 11月から隔週で移動販売に来てもらい利用者に直接おやつを選んでもらい買い物を楽しんで頂いている。
- ② 職員個々の取組みと職場研修を通じ、研鑽を図り成長できるように取り組む。
 - ・ 毎月の職員会議で、参加したオンラインを含む外部研修（リスクマネジメント、認知症実践者研修、苦情解決関係等）の復命や資料を配布し、自己研鑽に資した。
- ③ 医療関係など他事業所と連携し、支援体制の強化を図り、サービスの質を高める。
 - ・ 訪問診療（月2回）、訪問看護（毎週水曜日）、訪問歯科（月1回程度）を継続し、利用者の健康管理に努めた。
 - ・ デイサービス勤務の歯科衛生士により、月1回、GH職員に口腔ケアの指導と利用者

の口腔チェックを行った。

④ 「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を」目指す。

- ・ 毎月季節に合わせた行事を実施した。【表 1】のとおり。
- ・ ヒヤリハット、事故報告書を用い職員同士で情報共有しながら事故防止に努めた。

⑤ 新型コロナ感染症等の状況に応じた対応がとれるよう体制を整備する。

- ・ 日々、施設内の消毒や換気を定期的に行った。
- ・ 職員がコロナに感染した場合は、感染対応に切りかえ、入浴を清拭で対応したり感染拡大防止に努めた。
- ・ 感染対応中は職員減と業務負担軽減のため食事を自炊から弁当に変更した。夜勤者は2名体制に増員は難しいため、1名での対応となった。

⑥ 利用者の方々の理解を深め、適切な支援が行えるよう取り組む。

- ・ 毎月の職員会議で利用者への支援方法について話し合い情報を共有し対応した。また、それらを施設サービス計画書に反映させている。

【その他】

- ・ 利用者の年齢と介護度は別添資料【表 2】【表 4】のとおり。
- ・ 事故、ひやり・ハツとの状況については、別添資料【表 5】のとおり。

〔表 1〕 処遇行事実施状況

4/11 お花見ドライブ	8/12 お盆供養	12/25 誕生会、クリスマスケーキ作り、クリスマス会
4/14 カラオケ大会	8/18 スイカ割り	
4/21 誕生会	8/24 夏まつり	12/31 年越し
5/ 1 開所記念行事	9/15 饅頭作り	1/15 みずき団子作り
5/12 母の日行事	9/22 敬老会	1/19 誕生会
5/26 お楽しみ会	9/29 花火鑑賞	2/ 2 豆まき会
5/30 新緑ドライブ	10/ 6 芋の子会	2/23 誕生会
6/ 2 誕生会	10/16 紅葉ドライブ	3/ 3 ひなまつり会
6/16 お菓子作り	10/26 芋の子会	3/30 誕生会
6/23 ピクニック	11/ 3 干し柿作り	
7/ 7 セタ会、梅ジュース作り	11/16 紅葉ドライブ	
7/28 誕生会	11/17 お好み焼き会	
	12/ 1 プチケーキ作り	

〔表 2〕 外出外泊、面会の状況

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
外出外泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面 会	8	10	22	21	21	10	7	11	11	5	5	3	134

[表 3] 利用者の年齢の状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

区分	～80 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95～99 歳	100 歳～	合計	最高 94 歳 最低 69 歳 平均 89 歳
男	0	0	0	0	0	0	0	
女	1	2	2	4	0	0	9	
合計	1	2	2	4	0	0	9	

[表 4] 利用者の介護度の状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均 2.00 前年度 1.78
男	0	0	0	0	0	0	
女	2	5	2	0	0	9	
合計	2	5	2	0	0	9	

[表 5] 令和 6 年度の事故、ひやり・ハッとの状況

区分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
事 故	転 倒	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	4
	その他	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	2	9
	計 b	1	1	0	1	1	1	2	1	1	0	2	2	13
ひハ やッ りと ・	転 倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	3	2	1	0	2	1	2	1	0	0	0	13
	計	1	3	2	1	0	2	1	2	1	0	0	0	13
合計		2	4	2	2	1	3	3	3	2	0	2	2	26

Ⅲ 保育事業〔わがの里保育園〕

重点目標である「気持ちの良い挨拶や笑顔、子どもも保護者も安心できる保育園を目指す」ことについて、園児・保護者に対してだけでなく職員間でも実践することを申し合わせて取り組みました。保護者対応をしている時に、迎えが重なることがあり挨拶できず終わってしまうことがあったため、途中で振り返る機会をもち、子どもの様子を少しでも伝えられるよう進めました。今後も気持ちの良い挨拶や笑顔で子どもや保護者に接していきます。

保育目標に沿った計画のもと、一人一人の子どもが安心して安全に過ごせるよう環境整備に努めました。また、子どもが園での遊びや異年児交流、その他の生活の中で、様々な経験を通し、生きる力の基礎を培うことに努めました。

6年度も継続して、いわて幼児教育センターでの幼児教育専門員訪問支援事業を活用し、乳幼児施設経験のある専門員から保育を見てもらい、子どもへの援助や環境構成、保護者支援について学びました。その中でアドバイスをもらうことができ、保育のレベルアップにとって有効な機会となり質の向上につながりました。また、キャリアアップの仕組みを構築するキャリアアップ研修を、延べ 16 名が受講して専門知識を習得しました。

利用状況は、4月当初は定員を下回る入所人数でしたが、徐々に園児が増えて140名の定員に対し143名を受入れし、利用率が102%となりました。

1 保育業務

ICT の活用により事務作業の効率化がよくなってきた。保護者への連絡もシステム発信により素早く情報を提供することができた。

園生活を過ごす中で養護と教育が一体となり、一人ひとりの子どもに寄り添い保育をおこなってきた。子どもが主体的に活動できる環境を工夫し構成してきたことで思考力、判断力、表現力の基礎が培えた。また、異年齢での交流を持ったことでやさしく思いやりの気持ちも育った。

〔表1〕年間開園日数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日 数	25	24	25	26	26	23	26	25	24	23	22	25	294

〔表2〕児童の入所状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳 児	13	13	13	14	15	15	15	15	15	15	15	15	173
1～2歳児	50	50	50	50	50	50	51	51	51	51	51	50	605
3 歳 児	22	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	284
4～5歳児	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	648
計	139	140	140	142	143	143	144	144	144	144	144	143	1,710

〔表 3〕 児童の出席数

区分	年間在籍 合 計	年間出席 児 童 数	年間保育 日 数	月 平 均 保育日数	平均出席数	年 間 出 席 率
令和 6 年度	41, 889人	32, 217人	294日	24日	109人	76%

① 児童の健康管理

- ・ 保育室の清掃、消毒を適宜行い、日々の健康状態を丁寧に確認しながら体調の変化に注意し早期発見に努めた。また、感染症流行時には、保護者に流行状況を知らせ家庭でも健康観察の徹底、体調管理の協力をお願いし、感染予防に努めた。
- ・ 衛生指導を月ごとに行い、手洗いの徹底を呼びかけたり、感染症が流行している時は繰り返し指導した。

〔健康診断の実施状況と結果〕

内 容	実施月日	担 当 医	検 診 結 果
内 科	5/22	根本小児科医院	風邪1名
	10/10	〃	異常なし
眼 科	6/24	藤田眼科医院	アレルギー性結膜炎7名 外斜視2名
	11/11	〃	外斜視2名
歯 科	5/29	畠山歯科クリニック	虫歯あり12名（治療完了者も含む） 虫歯の総数37 本
	10/2	〃	虫歯あり15 名（治療完了者も含む） 虫歯の総数40本

② 安全管理

ア 安全点検

- ・ 毎週園内外の安全点検を行い、危険な箇所があればその都度すぐに修復し、安全に過ごせるようにした。また、散歩コースの安全点検をし、安全な散歩ができるようにした。

イ 安全指導

- ・ 毎月、時期に合わせた安全指導を行い、子ども達と一緒に安全な遊び方を確認した。また、安全な道路の歩き方など日頃の実践を通し、子ども達自身が自分の命を守るための約束事がしっかりと身につくように指導した。

ウ 避難訓練

- ・ 火災や地震に対しての園内訓練の他、水害を想定した避難訓練を実施した。和賀分署消防署員からも通報訓練の手順や消火器の扱い方を指導してもらい毎月の訓練に活かすことができた。
- ・ 災害時の対応として、水害訓練と合わせて引き渡し訓練を行った。引き渡しカーを使用し、確実に保護者に引き渡すことができた。

エ 事故防止

- ・ 午睡中に呼吸や体位の観察を徹底した。タオルケットが顔にかかっているかや、部屋の明るさに配慮したり、異常の早期発見に努めた。
- ・ 園内外の環境整備に努め、安全点検を行った。施設の整備点検、危険な場所や物がないか確認し職員間で情報を共有し、安全に過ごせるよう配慮した。なお、破損しているところはすぐに整備をした。

- ・ 食事中の咀嚼の状況や顔色を確認できるよう職員の食事介助の位置に配慮し、誤嚥や窒息を予防した。
- ・ その他、園内外の環境整備に努め、安全点検を行った。施設の整備点検、危険な場所や物がないか確認し職員間で情報を共有し、安全に過ごせるよう配慮した。なお、破損しているところはすぐに整備をした。
- ・ 令和6年度は、事故10件、ひやり・ハッと0件であった。
事故があった際は、職員ミーティングで、発生時の状況、要因の確認、改善策の検討・共有を行い、再発防止につなげた。

〔事故 ひやり・ハッと件数〕

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事 故	1	1	1	0	1	0	2	0	1	1	2	0	10
ひやり・ハッと	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	1	0	1	0	2	0	1	1	2	0	10

(事故内容) 殴打・打撲7件、裂傷2件、脱臼1件

③ 栄養管理

- ・ 地元の食材をできるだけ取り入れながら、季節感があり色彩豊かで調和のとれた献立を工夫し、給食が子どもにとって魅力的なものであるよう食事の質の改善と、美味しい給食の提供に努めた。
- ・ 低年齢児は、離乳食調査票を用いて家庭での様子を把握して食事や食具の提供をした。離乳食から幼児食に移行する際には、食品調査（特定原材料について）と同意書を家庭から提出してもらい、未摂取の食材を保育園で初めて食べることのないよう注意した。食品調査票は、食品表示法の改定にともない、内容を見直した。
- ・ 子ども達が自らの感覚や体験を通して食への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つよう、子ども達と調理従事者との関わりを積極的に持つように努めた。
- ・ 年間食育指導計画に基づき、子ども達が育てた野菜を給食に取り入れたり、クッキングやバイキング等を通じて食べ物への興味や関心を持てるよう配慮した。
- ・ 食育集会やクラス巡回を行った。年4回の食育集会では体と食べ物の関係に関心を持ち、食べる意欲へつながるよう絵図を用いて知らせた。
- ・ 食物アレルギーや体調不良の子に対しては個別の対応をした。食物アレルギー対応マニュアルに沿って、医師による生活管理指導表に基づき保護者と面談し、全職員が共通理解した上で除去食品の誤食などの事故防止に努めた。
- ・ 安全で安心できる食事を提供するために、大量調理衛生管理マニュアルに沿って衛生管理を行った。調理従事者の健康状態の確認及び記録を実施した。
- ・ 給与栄養目標量の割合は、対象となる子どもの体格や家庭での栄養摂取状況を把握、評価した上で、1日全体の食事に占める保育所の給食の割合を検討し、目標を設定した。
- ・ 園－Renraku(システム配信)を活用し、保護者に食育の取り組みや、誕生会メニューの内容を知らせた。保護者支援につながるよう取り組んだ。

〔給食実施の結果摂取量〕（１日の１人当たり）

区 分	未 満 児		3 歳 以 上 児	
	目 標	摂 取 量	目 標	摂 取 量
カロリー	495	510	456	479
蛋白質(g)	19.0	20.0	21.0	20.1
脂 肪(g)	14.0	17.0	17.0	18.0

※摂取量 3 歳以上児の数値が少ないのは、米飯を持参しているため。

④ 職員研修状況

- 積極的に園外研修を受け、園内での研修にも繋げながら職員全体で共通理解を深めた。特に、岩手県立総合教育センターの研修、北上市幼保小等連絡会議に積極的に参加し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続とスタートカリキュラムの作成や活用等に理解を深めるようにした。11/6 本園の公開保育に和賀東地区幼保小の教員、保育教諭、幼稚園教諭に来園いただき、幼児期に育ってほしい 10 の姿をもとに共有を行った。また、キャリアアップ研修の受講に伴い保育の質の向上を図ることができた。

⑤ 行事の実施状況

月	行 事 名	月	行 事 名
4 月	入園お祝い会	12 月	保育利用内定面接 クリスマス会
5 月	園児健康診断		
6 月	園児健康診断	1 月	ミズキ飾り 交通安全教室
7 月	七夕誕生会 防犯教室		
9 月	運動会	2 月	誘拐防止教室 豆まき会
10 月	交通安全教室 総合避難訓練 園児健康診断	3 月	ひなまつり会 お別れ会 進級お祝い会 卒園式
11 月	生活発表会		
誕生会、避難訓練、安全指導(毎月)		キッドビクス (5 回)	
ピクニック 6 月～10 月		食育集会 (4 回)	
英語教室 5 月～2 月 (10 回)		衛生集会 (3 回)	
サッカー教室 (2 回)			

2 特別保育事業

① 障がい児保育

- 対象児 2 名に担当 2 名の加配配置をした。担当保育者が個別に支援計画を立てて生活習慣が身につくように工夫しながら援助を行った。また、保護者と面談の機会を持ち、思いを丁寧に聞き取り相談支援ファイルを作成することで保護者や関係機関とも子どもの育ちを共有し支援することができた。

② 延長保育

- 今年度は、年間を通じての利用が少なかった。冬期は積雪のため短期契約で利用する家庭もあった。保護者の就労、通勤状況によって緊急延長保育を利用する家庭が増えた。おやつ内容に関して、アレルギー児・離乳食の園児については、おやつ確認表を用いて複数の職員で確認し、安全な提供を行った。

〔延長保育利用状況〕

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月決契約児人数 (前年度)	2 (5)	1 (4)	1 (4)	4 (5)	4 (5)	2 (5)	2 (3)	2 (3)	4 (5)	4 (5)	3 (6)	3 (5)	32 (55)
延べ利用回数	19	18	18	44	49	26	28	31	35	33	28	31	360
緊急利用児人数	6	13	11	12	15	14	14	14	14	16	19	19	167
延べ利用回数	11	25	24	16	32	21	29	22	53	34	33	37	337

③ 病児保育（体調不良児対応型）

- 発熱や湿疹（手足口病が流行）での利用が多く見られた。消化器症状の利用もあり、園児の利用人数が複数となったときはパーテーションを利用し、不安を与えないように声をかけ、ゆったり過ごせるよう配慮した。保護者には、帰宅後の過ごし方を丁寧に伝え、症状の悪化を防ぐとともに休養をとることができるよう声かけを行った。

〔体調不良児利用状況〕

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用人数	32	46	23	48	8	32	46	45	34	35	33	33	415

④ 世代間交流

- 老人ホームの中庭へ行ってドア越しに手を振ったり、デイサービスのスロープのドアを開けてもらい会話をしながらやりとりを楽しんだりすることができた。七夕会、敬老会には年長児がデイサービスを訪問し、ハロウィンの時には3. 4. 5歳児はグループホーム、0. 1. 2歳児はデイサービスへ出掛け、歌ったり踊ったりした。入所者の方々も仮装して、楽しい雰囲気の中で交流を持つことができた。
- 江釣子地区敬老会に参加し踊りを披露して温かい拍手を頂いた。